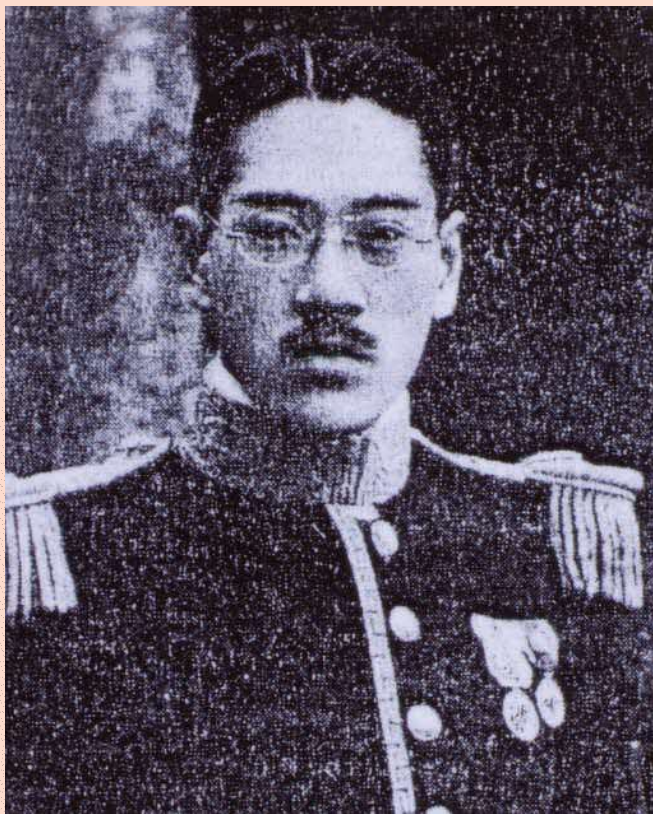


短歌

もうりへきどう  
毛利碧堂



下関市  
(1890~1966)

毛利碧堂（本名、元恒）。清末毛利家の第十代当主。大正十一年、三十二歳の時、山口県下初の歌誌『白梅』を創刊。主幹として歌作に研究に評論に健筆をふるい、大正、昭和の山口県歌壇に大きな影響を与えた。『白梅』は表紙を竹久夢二が描き、生田蝶介・若山牧水・吉井勇・窪田空穂らが選者を務めたが三十一号で終刊した。しかし、会員から竹内八郎・大田哀歌鳥・江原青鳥・小川五郎といった人々が育ち、彼らが昭和の県歌壇と文芸に指導的役割を果たした。貴族院議員、小野田セメント取締役、山口県家禽協会会長を務めた。

（中西輝麿）

【主な著作】

『白梅歌集』（白梅詩社、大正12年）